

様式第 1 号

原西部集落「集落営農ビジョン」

(人材確保型支援 ・ 規模拡大・発展型支援 ・ 地域計画実現型支援)

※該当する支援メニューに○を記入

作成日：令和 7 年 4 月 1 1 日

修正日： 年 月 日

市町村名	北栄町	組織名	原西部営農組合
1 地区の範囲 北栄町 原地区			
2 地区の概要			
水田面積	48.03 h a	主な栽培作物 水稻・大麦・大豆	
農家数	75 戸	地域内の農業を担う者の経営体数	7 経営体
認定農業者数	3 経営体	農業支援サービス事業体の経営体数	0 経営体
3 組織の概要			
設立時期 (規約等の制定日 平成 8 年 3 月 1 日)		構成農家数 27 戸	
組織形態 (該当形態に○を記入) ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ <u>協業経営型</u>			
役員の数・年齢 8 人 (平均年齢 72 歳)			
オペレーターの数・年齢 8 人 (平均年齢 67 歳)			
その他集落営農活動に参画している人数・年齢 11 人 (平均年齢 67 歳)			
4 集落営農に対する基本方針			
【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】			
(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標 ※考え方 (担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。)			
・ 原西部営農組合は、地域の農地は地域で守るを基本方針にして平成 8 年に設立し、地域の農地を集積し、水稻、麦、大豆を生産している。 ・ 地域の水田面積 48.03ha のうち 15.79ha を管理し、他の担い手の集積分を除外した対象水田 19.32ha に対する利用集積率は 81.7% で原西部営農組合による集積がかなり進んでおり、今後農業をリタイヤされる農家の方の受け皿として、農地を維持し地域農業に貢献していく。 ・ 担い手は 8 人の役員が中心となるが平均年齢が 72 歳、オペレーターの平均年齢も 67 歳と年々高齢化が進んでいる。担い手は勤めを退職した方を育成してきたが、定年年齢の引き上げにより、本格的に営農作業に参加する年齢が高齢化しているため、若い世代の人材確保と育成が課題となっている。そもそも若い世代の人数自体が非常に少ないため確保が難しいが、仕事の無い土日に参加可能な方に、現役世代から徐々に業務内容や機械操作を教える等オペレーターの育成を進め、担い手の確保を図っていく。			

(2) 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

※考え方（今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。）

- ・令和6年度の実績は、作付延べ面積36.7ha。水稲は、星空舞8.5ha、きぬむすめ9.5haの合計18.0ha。転作については二毛作で、大豆（サチユタカ）9.6ha、麦（しゅんれい）9.1haを作付け。

今のところ、水稲、大豆、麦以外の園芸作物の新たな取り組みは予定していないが、水稲については、近年度々大雨に見舞われたり、猪被害により畦畔がダメージを受け漏水するほ場もあるので、畔塗り等で畦畔を再建する。転作の大豆、麦については、出来るだけブロックローテーションを実施し、播種前の反転・耕耘作や播種後の排水溝処理を丁寧に行い排水性を高め、収量・品質の向上を図っていく。

- ・今後も農業改良普及員に指導を受けながら、きめ細やかなほ場管理を行い、収量を上げ、食味の良い米・大豆・麦づくりに取り組んでいく。

(3) 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

- ・効率的な機械導入へ移行を図ることにより労働力を削減し、労働力不足を解消していく必要がある。
- ・機械設備の大型化・自動化（スマート化）により人的資源の省力化や作業の効率化が図られるか考えながら機械を導入するとともに、人材育成にも取り組んでいく。
- ・畦畔の草刈り作業は参加可能な組合員で行っている。令和6年度は、共同の草刈りを土日中心に10回実施し平均17～18人の参加があったが、60代から80代の組合員が多く今後リタイアされる方も増えるため、畦畔管理の省力化・効率化が必要となる。現在、草刈り作業に関しては、草刈機は組合員個人から借上げで対応しており、組合所有の機械は自走式草刈機（スパイダーモア）1台のみである。夏場の暑い時期の草刈りは、高齢者には負担が大きいので、傾斜のある畦畔でも安全に作業できる自走式草刈り機の台数を増やす等作業の軽減や効率化を図っていく。

(4) 人材の確保、後継者育成に関する方針

※考え方（新たな人材をどのように確保し、どのような方法で育成していくか。）

小規模農家は、高齢化や自然環境の変化、肥料の高騰等により農業を維持していくことが難しくなり、若い層の農業離れが進んでいる。当組合でも作業参加者の確保は、高齢化や定年延長のため年々難しくなっている。オペレーターは現在6名いるが高齢化が進んでおり、人材確保・育成が必要である。

対応策として

- ・現在若い世代は40代2名、50代3名の計5名おり、その内、3名が大型特殊免許を取得しているが、まだ組合の機械に乗っていない者もいるので少しずつ指導していくとともに、免許未取得の2名にも取得をするよう声掛けしていく。
- ・近隣組織の所有するドローンを共同利用する動きがあることから、将来的なドローン活用を考えて、ドローンの資格取得についても声掛けしていく。
- ・作業賃上げ、労働意欲の向上を図る。
- ・土日など休日に参加可能な退職前の組合員への技術の伝承を図る。
- ・退職予定者に声掛け、参加を働き掛ける。
- ・若い世代への接し方、指導方法を慎重に考え、組織に溶け込みやすい雰囲気を作る。

(5) 経営多角化の方針・具体策

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）

- ・現状では基礎を固め体制構築を最優先に考えており、多角化の計画はない。近年は米余りによる米価下落状況にあったが、令和6年産米は価格が上昇し収益がかなり増えたので、今後の米価安定に期待しつつ水稻栽培にもっと力を入れていく。また、大豆・麦のほ場条件の改善（特に排水対策）を実施し、安定性を図る。具体的には、条件の良いほ場の選定と選定ほ場の更なる改善策の実施、連作障害回避のためのブロックローテーションの実施等で収益を確保する。排水対策については、明渠施工に加えプラウによる反転を実施する。

I 人材確保型支援実施計画 ※規模拡大・発展支援型支援のみを実施する場合は省略

1 人材確保のための取組方針

項目		実施年度		
		令和7年度	令和8年度	令和9年度
人材育成研修	実務研修			
	免許取得			
	その他			
集落営農活動への参画				

2 畦畔管理の省力化のための取組

(1) グランドカバープランツ施工計画

施工場所：

施工対象面積（畦畔実面積）： ha

本田（＝水張）面積： ha

年数	内容	面積 (ha)	金額 (円)	実施年度
1年目				
2年目				
3年目				

注1）記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

(2) 畦畔管理用機械導入計画

（機械利用対象畦畔面積 ha、本田（＝水張）面積 ha）

機械施設名	規格能力	台数等	金額（円）	導入予定年月

(3) 畦畔管理用作業の状況

内容	現状 (年度)	事業実施後 (年度)
取組対象（予定）面積 (ha)		
取組対象面積当たり年間 作業時間		

注1) 取組対象圃場について記載すること。

2) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

3 園芸品目の試作

項目	実施年度		
	○年度	○年度	○年度
園芸品目の試作			

4 賑わい活動への参画促進

項目	実施年度		
	○年度	○年度	○年度
賑わい活動への参画促進			

II 規模拡大・発展型支援実施計画

※人材確保型支援のみを実施する場合は省略

1 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

項目		現状	目標 令和10年度
農地の集積	地区内集積面積 A	15.79 h a	16.77 h a
	対象水田面積 B	19.32 h a	19.32 h a
	集積率 A/B	81.7%	86.8%
	地区外集積面積 C	11.6 h a	11.6 h a
	組織集積面積 A+C	27.39 h a	28.37 h a
経営の多角化への取組			

注1) 経営の多角化への取組は、該当する場合のみ記載すること。

注2) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

注3) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。

2 農業用機械施設の整備方針

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
畔塗機		1台	1,378,300円	令和7年10月	○

Ⅲ 添付資料

1 人材確保型支援

- (1) 研修計画一覧（参考様式）
- (2) 規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）

2 規模拡大・発展型支援

- (1) 集積状況一覧（別表1、2）
- (2) 機械の利用計画（別紙）
- (3) 規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）